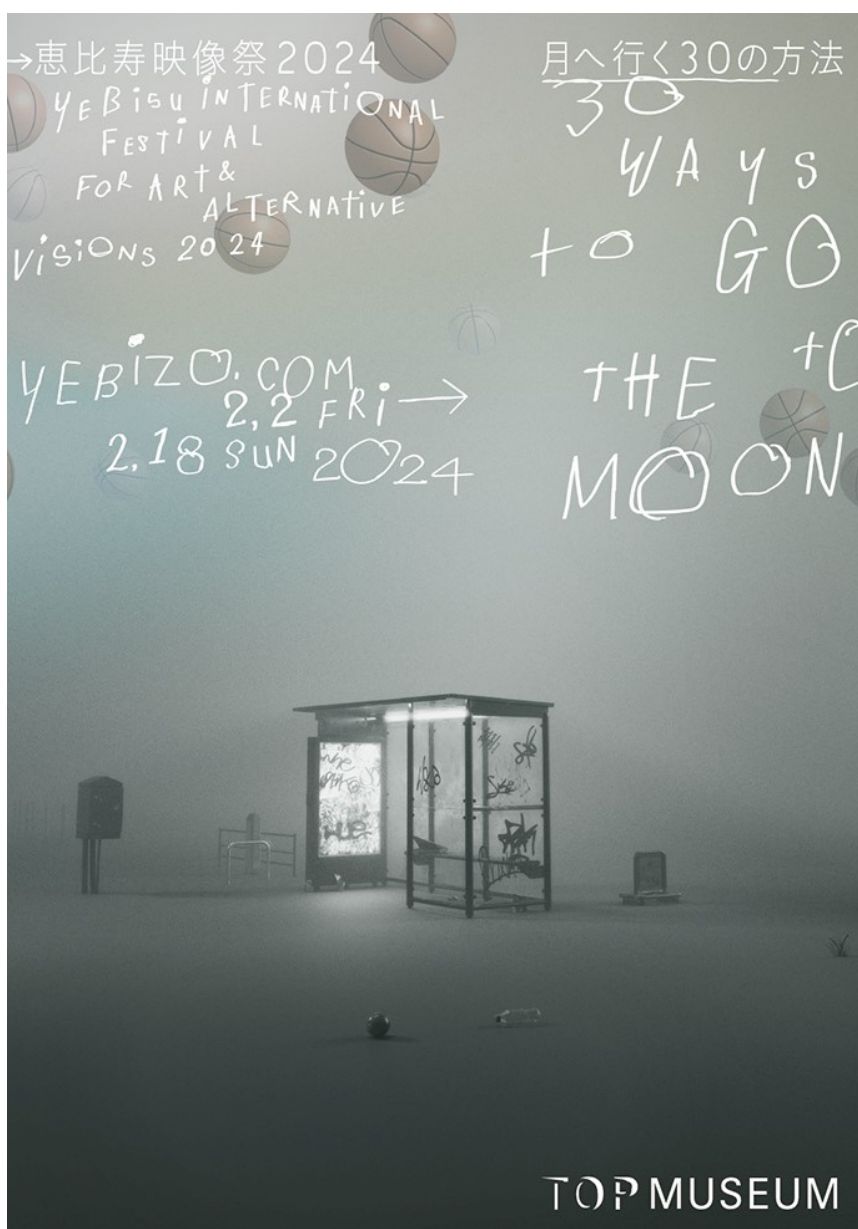


展示出品作家など詳細プログラム決定！
恵比寿映像祭 2024「月へ行く 30 の方法」



2024 年 2 月 2 日 (金) ~ 2 月 18 日 (日) [15 日間]
東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス センター広場ほか
※コミッション・プロジェクト (3 階展示室) のみ 3 月 24 日 (日) まで

TOP MUSEUM

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

総合テーマ

「月へ行く 30 の方法」

30 Ways to Go to the Moon

アメリカのアポロ 11 号による月面着陸から半世紀以上が経ち、人々が気軽に月へ行くことも技術的に不可能ではなくなりつつあります。しかし、最先端の科学技術や理論以上に、一見それとは結びつかないようなアーティストたちの思考や実践が、新しい発見や創造につながり、月へ向かうための大きなヒントになるかもしれません。

恵比寿映像祭 2024 では、「月へ行く方法」という命題を、写真や映像を主とした様々な表現によってひも解き、アーティストだけでなく、そこに参加する観客とともに考えていく試みを行います。歴史的な作品から現代作品まで、異なる角度からイメージの可能性を探ります。

※総合テーマは、土屋信子「30 Ways To Go To The Moon/月へ行く 30 の方法」展（2018 年）のタイトルより引用

2 階展示室では、東京都写真美術館のコレクションを含む、多様な社会的・文化的背景を持った作家たちの映像、写真、資料などを展覧し、そこから導かれる集合的知性によって我々の未来の在り方を探ります。また展示室の中央では、連日、パフォーマンス、トーク、ディスカッション、ワークショップなどのプログラムを行い、作家と来場者がコミュニケーションを交わし、ともに思考を重ねていく場を生み出していきます。ひとりひとりが出来事を目撃者や体験者となることで、記録の装置（メディア）、記憶の図鑑となるような鑑賞体験を目指します。

地下 1 階展示室は、科学や理論では解明しきれない未知なる可能性や思考を示唆する作品やプロジェクトを紹介します。2 階を集合知的な空間とするならば、地下 1 階は、その集合知から学びながらも、さらなる想像力によって飛躍する果てしない未来への旅のスタート地点と言えるかもしれません。

今回の恵比寿映像祭の特徴の一つは、映像の一回性に注目している点です。映像という複製芸術でありながら、反復や非場所という性質とは正反対である一回性にこだわった作品、パフォーマンスやユニークピース、すべてを目撃（鑑賞）することができないような時間的な奥行きや限界に取り組む作品、また映像制作のプロセスに身体的な行為や思考を作用させることで、その場で完成し、消滅していくような作品を紹介する予定です。

そしてこれまで以上に、上映プログラムと展示プログラムを接続し、双方向の横断を試みたプログラムづくりを展開します。

開催概要

名称 | 恵比寿映像祭 2024「月へ行く 30 の方法」

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2024

“30 Ways to Go to the Moon”

会期 | 2024 年 2 月 2 日（金）～2 月 18 日（日）[15 日間]

月曜休館（ただし 12 日（月・振休）は開館し、13 日（火）休館）

※コミッション・プロジェクト（3F 展示室）のみ 3 月 24 日（日）まで

時間 | 10:00-20:00（18 日は 18:00 まで）

※2 月 20 日（火）～3 月 24 日（日）のコミッション・プロジェクトは月曜休館 10:00-18:00（木・金は 20:00 まで）

※入館は閉館の 30 分前まで

会場 | 東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス センター広場、地域連携各所ほか

料金 | 入場無料 ※一部のプログラム（上映など）は有料

主催 | 東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／日本経済新聞社

共催 | サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館

助成 | オランダ王国大使館／台湾文化部／台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター

後援 | 株式会社 TBS テレビ／J-WAVE 81.3FM

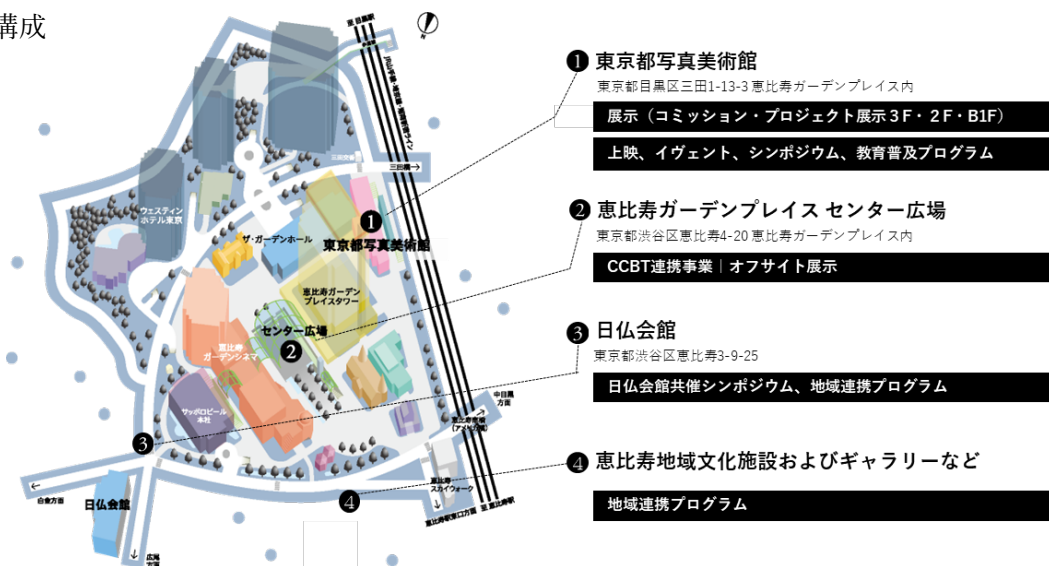
協賛 | サッポロビール株式会社

公式 HP | www.yebizo.com

公式 SNS | X（旧 Twitter）：twitter.com/topmuseum Instagram：instagram.com/yebizo

お問い合わせ | 03-3280-0099（代表）

会場構成



みどころ

1. 多様な見方を知り、思考する

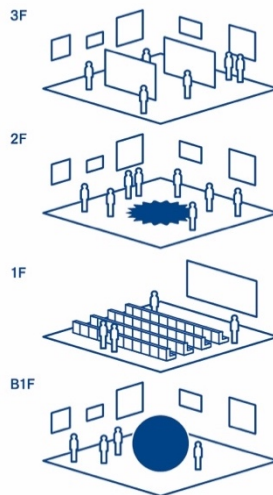
最初に訪れる 2 階展示室は、会期中に作家と鑑賞者とがコミュニケーションを交わしたり、共に思考を重ねる場として機能します。あえて順路や展示壁を作らず、広場のような空間で写真美術館のコレクションを含む多様な社会的・文化的アイデンティティを持ったアーティストたちの映像、写真、資料などを展示し、その中央では、連日、パフォーマンス、ライブ、スクリーニング、トーク、ディスカッション、ワークショップなどのイベントが行われます。



●荒川ナッシュ医（新作）：

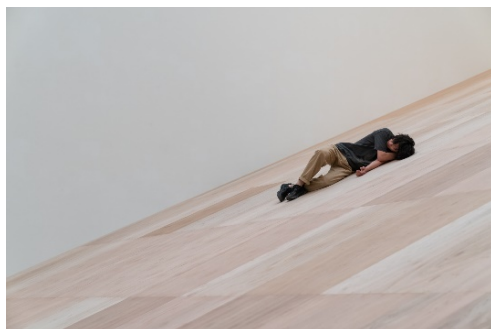
荒川ナッシュ医は、アジアの主体形成の未来を推測するため、様々な感情や感性の「間」にあるものについて、会期中、参加型の新作パフォーマンスを何度か行いながら探求します。またマイク・ケリーのソフト・スカルプチャーにインスピレーションを得た新作彫刻も合わせて発表予定です。

荒川ナッシュ医 《Mega Please Draw Freely》2021 年
テート・モダン、ロンドン Photo: Rikard Österlund



2. 映像の一回性とは？

時間や場所など様々に異なる条件下での作品鑑賞は、全てが一回きりの体験と言うこともできます。今年の映像祭では複製メディアとしての映像の一回性に焦点をあて、一回性にこだわったパフォーマンス作品や全てを目撃することができないような時間的な奥行きや限界に取り組む作品を紹介します。



左：関川航平《文》2023 年、豊田市美術館 Photo：中村マユ

右：王伊芙蓉韜程（エヴェリン・タオチェン・ワン）《A Scripted Impression》パフォーマンス写真 2022 年 ©Sang-tae Kim
Courtesy Busan Biennale Organizing Committee

●関川航平（新作）：物事の捉え方や考え方について身体や言葉を使った行為やインスタレーションで表現する関川航平は、写真美術館館内で作家と鑑賞者が予期せず出会う新作を発表。会期中不定期で行われる予定です。

3. 非言語コミュニケーションと想像力、ユーモアの力

植物にアルファベットを教えるジョン・バルデッサリの作品や猫と美術についての対話をするマルセル・ブロータスの作品など、異なる感性を持った他者とのコミュニケーションがはらむ困難や矛盾をユーモアに転じさせた作品を通して、コミュニケーションの本質とは何かを共に考えます。また、高橋凜による一人では立つことのできない表彰台の彫刻など、言語を超えた互いのコミュニケーションによってのみ完成するユーモア溢れる作品も紹介します。



左：中谷芙二子《風にのって一本の線を引こう》1973 年/ 18 分 32 秒 ©Fujiko Nakaya

右：コリー・アーケンジェル《Drei Klavierstücke op.11》2009 年 Photo: Arcangel Studio ©Cory Arcangel

●マルセル・ブロータス《Interview with a Cat》(1970)：マルセル・ブロータスは猫に問いかけ、対話を試みますが、返事は「ニャー」としかもらえません。異なる感性を持った他者とのコミュニケーションがはらむ困難や矛盾をユーモアに転じさせ、そこにある想像力の可能性を明らかにします。

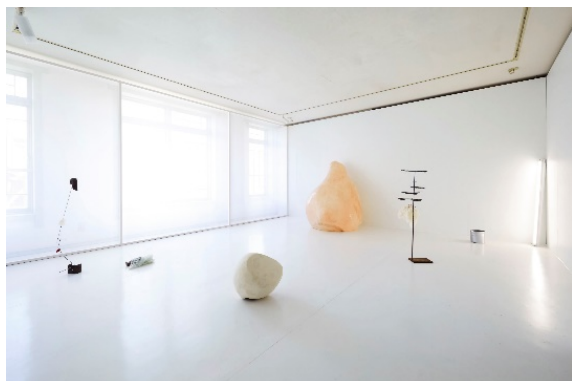
●ジョン・バルデッサリ《植物にアルファベットを教える》(1972)：観葉植物にアルファベットを教え続けるジョン・バルデッサリの作品もまた、意味が無意味に転じたときに、人間本位のコミュニケーションの皮肉からユーモアを浮かび上がらせ、コミュニケーションの本質とは何か、我々に問いかけます。

●中谷芙二子《卵の静力学》(1973)：中谷芙二子が、父親で物理学者の中谷宇吉郎によるエッセイ「立春の卵」への応答として制作した作品です。立春の日に卵が立つという伝聞を、科学的考察から立春の日でなくても卵が立つものだとした宇吉郎の着眼点から、実際の卵を立てる行為をビデオで記録することで、新たな観察の面白さを伝えてくれます。

●コリー・アーケンジェル《Drei Klavierstücke op. 11》(2009)：コリー・アーケンジェルはオンライン上に大量にアップロードされた猫がピアノの鍵盤の上で戯れる映像を集めてアルノルト・シェーンベルクの楽曲《Drei Klavierstücke op. 11》を完成させます。世界のかげらが集まったとき、ひとつの作品が生まれます。

4. 科学や理論では説明できないアーティストたちの実践

地下 1 階展示室では、情緒で数学を解くことを試みた数学者・岡潔にインスピレーションを得た青木陵子+伊藤存の作品や、瞑想や神秘主義で美術史を新たに捉えなおすロジャー・マクドナルドのユニークな活動などを紹介します。私たちは世界の全てを見る（知る）ことはできませんが、アーティストたちの眼差しや実践から、オルタナティブな思考や未来像（ヴィジョン）を探求し、2 階展示室で生まれる対話や多様な視点や思考への応答を試みます。



左：土屋信子「マツモト建築芸術祭」展示風景、2022 年 Photo：木内和美



右：フェンバーガーハウス／ロジャー・マクドナルド、Dome Temple installation in the Dome、2023 年

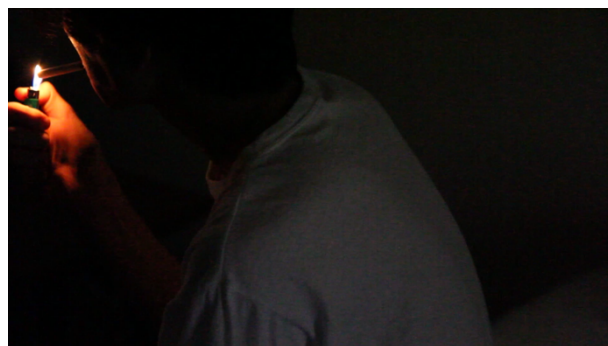
●土屋信子《月へ行く 30 の方法》（新作）：土屋信子は、さまざまな感性や感覚のはざままで身近なものや廃材を自在に組み合わせて象った立体作品に、フィールドレコーディングした細やかな音声や映像を組み込んだ映像祭ならではの試みに取り組みます。

●フェンバーガーハウス／ロジャー・マクドナルド：芸術の起源や意識への作用に関心を寄せるロジャー・マクドナルドによる私設美術館「フェンバーガーハウス」のブランチを写真美術館内に開館します。ワークショップやトークイベントなども開催予定です。

●青木陵子＋伊藤存《9 歳までの境地》（2011）：2000 年頃よりコラボレーションを行う青木陵子と伊藤存は、数学を理論ではなく情緒で解くことを説いた数学者・岡潔にインスピレーションを得て、こどもの感性の発芽や成長に着目したライフワーク《9 歳までの境地》の最新版のインスタレーションを発表します。

5. 双方向にリンクする上映と展示プログラム

ジャパン・プレミアとなるデイヴィッド・ハモンズのドキュメンタリー映画と共に、展示室ではハモンズが制作したビデオ作品や彼の代表作のアーカイヴ写真が展示されるほか、上映プログラムと展示プログラムの双方で紹介される作品やトピックをミヤギフトシ（American Boyfriend プロジェクト）が書き下ろしテキストによってつなぎます。上映と展示が相互にゆるやかにリンクし、アーティストや作品への理解や関心がより深まると同時に、上映と展示を横断的に鑑賞いただけるプログラム構成を展開します。



左：“David Hammons on 125th street,” 1981. ©Michael Blackwood 《The Melt Goes On Forever》より From *The Melt Goes On Forever*.

右：ミヤギフトシ《The Ocean View Resort / オーシャン・ビュー・リゾート》2013 年／19 分 25 秒

6. 上映プログラムでは台湾などアジアの勢いに注目

第 60 回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展台湾代表の袁廣鳴（ユエン・グァンミン）と台湾在住で日台の美術専門メディアにて現代アートに関するレビューや書評などを執筆する岩切滯がキュレーションする台湾現代短編映像特集のほか、アジア 15 地域の国際映像コンペである DigiCon6 ASIA からセレクトされた「月へ向かうヒントが得られる!?!11 のアニメーション」や「8 ミリ短編映画特集（釜利子／宮田靖子／小口容子／小田香）」など、アジアにおける多様な映像表現を特集プログラムで紹介します。

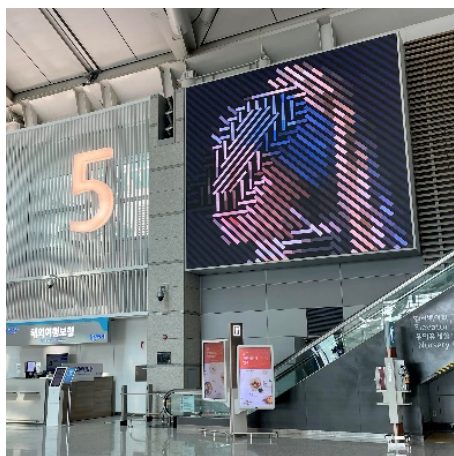


左：袁廣鳴（ユエン・グァンミン）《日常演習》2018 年／5 分 57 秒

右：フライング モンキーズ プロダクション《Monsoon Blue》2023 年／14 分 19 秒

7. オフサイト展示でジェネラティブ・アート作品が多数展示

アートとデジタルテクノロジーを通じて、人々の創造性を社会に発揮するための活動拠点「シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]」が連携し、大型ビジョンにてジェネラティブ・アート作品の特別プログラムの上映を行います。パブリックに広がる大型ビジョンをプログラム言語によって生成される多彩な映像で埋め尽くすプログラム。個人によるオンラインの表現動向と都市空間をダイレクトに結びつけ、映像メディアの都市・社会における可能性を改めて提示します。



左：セオ・ヒョジョン《Redraw with Code》2021 年「Port to the New Era」展、仁川国際空港

右：高尾俊介《JaggedMemories》2023 年

プログラム詳細

展示、ライブ・イベント | 3・2・地下1階展示室

「月へ行く 30 の方法」というテーマを、未来のあり方のメタファー（比喻）として、写真や映像を主とした様々な表現から探求し、アーティストだけでなく鑑賞者の参加によって共に考えていく試みを行います。

2 階展示室では、東京都写真美術館のコレクションを含む、映像、写真、資料などを一堂に展示し、多様なアイデンティティを持つアーティストたちそれぞれの視点や思考を共有します。そこでは異なる立場や作品テーマのなかから共通するヴィジョンを見つけたり、互いに共有できる問題意識やヒントを見つけたりすることができるかもしれません。地下1階展示室では、科学や理論では解明しきれない未知なる可能性や思考を示唆するアーティストたちによる、実践やプロジェクトによる作品を紹介し、2 階展示室で生まれる対話や多様な視点や思考への応答を試みます。3 階展示室では、前回コミッション・プロジェクト特別賞受賞アーティストの作品を、「月へ行く 30 の方法」の切り口から展示し紹介します。

また、2 階展示室やロビーでは、従来の映像の枠を超えた身体を使った表現やパフォーマンス作品の展示、ライブ・イベントのほか、ワークショップやラウンドテーブルといった観客参加によるプログラムも行います。

3 階展示室（コミッション・プロジェクト第1回特別賞受賞アーティスト）

恵比寿映像祭の新しい取り組みとして、2023 年から始まった制作委嘱事業「コミッション・プロジェクト」。日本を拠点に活動する新進アーティストのなかからファイナリストを選出し、制作委嘱した映像作品を発表します。恵比寿映像祭 2024 では、東京都写真美術館 3 階展示室にて、第1回特別賞受賞アーティストの荒木悠、金仁淑（キム・インスク）による総合テーマに合わせた展示を行います。併せて前回ファイナリスト 4 名のアーカイヴも公開します。

□ 荒木悠 Yu ARAKI

□ 金仁淑（キム・インスク） KIM Insook



左：荒木悠《Road Movie》2014 年／15 分 42 秒 ©Yu Araki / Image Courtesy of the artist and MUJIN-TO Production

右：金仁淑（キム・インスク）《House to Home》2021 年、トーキョーアーツアンドスペース、東京、2021 年

2 階展示室

東京都写真美術館 2 階展示室では、写真美術館のコレクションを含む、多様な社会的・文化的背景を持った作家たちの映像、写真、資料などを展覧し、そこから導かれる集合的知性によって未来のあり方を探ります。展示室の中央では連日、パフォーマンス、トーク、ディスカッション、ワークショップなどのプログラムを行い、作家と鑑賞者がコミュニケーションを交わし、共に思考を重ねる場を生み出していきます。

- ☐ キャシー・アッカー Kathy ACKER
- ☐ 荒川ナッシュ医 Ei ARAKAWA-NASH
- ☐ コリー・アーケンジェル Cory ARCANGEL
- ☐ 有馬かおる ARIMA Kaoru
- ☐ ジョン・バルデッサリ John BALDESSARI
- ☐ ダラ・バーンバウム Dara BIRNBAUM
- ☐ マルセル・ブロータース Marcel BROODTHAERS
- ☐ 周慶輝（ゾウ・チンフォエ） CHOU Ching-Hui
- ☐ ジェイ・チュン&キュウ・タケキ・マエダ Jay CHUNG & Q Takeki MAEDA
- ☐ フェリックス・ゴンザレス＝トレス Felix GONZALEZ-TORRES
- ☐ デイヴィッド・ハモンズ David HAMMONS
- ☐ 長谷川友香 HASEGAWA Yuka
- ☐ ミヤギフトシ Futoshi MIYAGI
- ☐ 山／完全版 Mountain Full Edition
- ☐ 中谷芙二子 NAKAYA Fujiko
- ☐ 白雙全（パク・シュウン・チュエン） PAK Sheung Chuen
- ☐ ジョアンナ・ピオトロフスカ Joanna PIOTROWSKA
- ☐ 良知暁 RACHI Akira
- ☐ 関川航平 SEKIGAWA Kohei
- ☐ ダヤニータ・シン Dayanita SINGH
- ☐ 杉原玲那 SUGIHARA Reina
- ☐ 高橋凜 TAKAHASHI Rin
- ☐ 王伊芙苓韜程（エヴェリン・タオチェン・ワン） Evelyn Taocheng WANG
- ☐ 東京都写真美術館収蔵作品展示作家

トレイシー・モファット Tracey MOFFATT、米田知子 YONEDA Tomoko、デュアン・マイケルズ Duane MICHALS、スーザン・ダージェス Susan DERGES、ブラッサイ Brassai、デイヴィッド・ヴォイナロビッチ David WOJNAROWICZ、ウィリアム・ユージン・スミス William Eugene SMITH、アピチャップン・ウィーラセタクン Apichatpong WEERASETHAKUL、李家昇 LEE Ka-sing、ウィリアム・クライン William KLEIN、岡上淑子 OKANOUE Toshiko



右：ダラ・バーンバウム《テクノロジー／トランスフォーメーション：ワンダーウーマン》1978-79 年／5 分 50 秒 Dara BIRNBAUM, *Technology/Transformation: Wonder Woman*, 1978-79. Courtesy of Dara Birnbaum and Electronic Arts Intermix (EAI), New York.



右：トレイシー・モファット《オズの魔法使い、1956年》〈一生の傷〉より、1994年、東京都写真美術館蔵



右：高橋凜 《Sculpture》 2023 年



右: フェリックス・ゴンザレス=トレス “Untitled”, 1992/1993 photo credit: Alan Rideout © Estate Felix Gonzalez- Torres, courtesy Felix Gonzalez-Torres Foundation



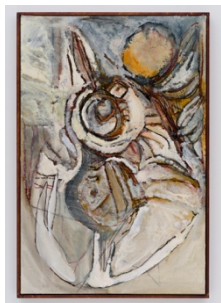
左：デイヴィッド・ハモンズ《Bliz-aard Ball Sale》のパフォーマンス風景、1983 年/2017 年 Photo: Dawoud Bey ©2024 David Hammons / ARS, New York / JASPAR, Tokyo B0711

右：長谷川友香《Spice Girls》2020 年 [参考図版]



左：山/完全版「The Floating Insomnia Puzzle Room」2022 年、PV 撮影風景 Photo: Miho Shimizu

右：良知暁「シボレート/schibboleth」のためのテキスト、2020 /2022 年、東京都現代美術館 Photo: Kenji Morita.



左：ダヤニータ・シン《Museum of Chance book-object》2013 年

右：杉原玲那《Carried》2022 年 Photo: Kei Okano. Collection of Satoshi Shiraki and Michiyo Kamata. Courtesy of the artist and MISAKO & ROSEN.

地下 1 階展示室

恵比寿映像祭 2024 では、総合テーマ「月へ行く 30 の方法」を、様々な表現によってひも解きます。東京都写真美術館地下 1 階展示室では、科学や理論では説明しきれない 未知なる可能性や思考を示唆する作品やプロジェクトを紹介します。2 階を集合知的な空間とするならば、地下 1 階は、その集合知から学びながらも、さらなる想像力によって飛躍する果てしない未来への旅のスタート地点と言えるかもしれません。

- ☐ 青木陵子+伊藤存 AOKI Ryoko + ITO Zon
- ☐ フェンバーガーハウス／ロジャー・マクドナルド Fenberger House/Roger MCDONALD
- ☐ リッスン・トゥ・ザ・シティ Listen to the City
- ☐ 土屋信子 TSUCHIYA Nobuko



左：青木陵子＋伊藤存《9 歳までの境地》2011 年、国立国際美術館 Photo：福永一夫

右：リッスン・トゥ・ザ・シティ『内城川（Naeseong River）の動植物図鑑』より ©Listen to the City

ライブ・イベント 東京都写真美術館 2F 展示室・ロビーほか

展示室やロビーにて、連日、パフォーマンス、スクリーニング、トーク、ディスカッション、ワークショップなど、従来の映像の枠を超えた イベントを行います。荒川ナッシュ医によるパフォーマンスやフェンバーガーハウス/ロジャー・マクドナルドのレクチャーやワークショップなど、アーティストだけでなく鑑賞者の方々と共に考えていく、いつもとは違う、美術館での新しい体験をお楽しみください。

日付	時間	No	内容/場所	アーティスト/プログラム名
2/3 (土)	13:00-14:30	01	[P/2F]	王伊芙苓韜程 (エヴェリン・タオチェン・ワン) Evelyn Taocheng WANG 《Layers of Vocalization》* 通訳付き
2/4 (日)	10:30-12:00	02	[P/2F Lobby]	荒川ナッシュ医 [公開リハーサル] Ei ARAKAWA-NASH [Open Rehearsal] 《Plush Subjectivity》
	17:00-18:30	03	[T/2F]	リッスン・トゥ・ザ・シティ Listen to the City * 通訳付き
2/8 (木)	13:00-15:00	04	[W/2F]	金仁淑 (キム・インスク) ① KIM Insook (1) 「《House to Home》のための公開インタビュー」 "Open Interview for House to Home"
	17:00-17:30	02	[P/2F Lobby]	荒川ナッシュ医① Ei ARAKAWA-NASH (1) 《Plush Subjectivity》
2/9 (金)	18:15-19:30	05	[P/2F]	良知曉 RACHI Akira 「〈シボレート / schibboleth〉をめぐる断章」 "Fragment on 'shibboleth / schibboleth'"
2/10 (土)	13:00-15:00	04	[W/2F]	金仁淑 (キム・インスク) ② KIM Insook (2) 「《House to Home》のための公開インタビュー」 "Open Interview for House to Home"
	17:00-17:30	02	[P/2F Lobby]	荒川ナッシュ医② Ei ARAKAWA-NASH (2) 《Plush Subjectivity》
2/11 (日・祝)	13:00-15:00	06	[P/2F]	山 / 完全版① MOUNTAIN/FULL EDITION (1) 「ライブ・パフォーマンス」 "Live Performance"
	17:30-19:30	08	[P/2F]	袁廣鳴 (ユエン・グァンミン)、岩切澤、高嶺格「ラウンド・テーブル コンプライアンス・フリー」 YUAN Goang-Ming, IWAKIRI Mio, TAKAMINE Tadasu "Round Table: Compliance-free" * 通訳付き
	10:00-15:00	06	[P/1F 各所]	山 / 完全版② MOUNTAIN/FULL EDITION (2) 「ライブ・パフォーマンス」 "Live Performance"
2/12 (月・振替)	10:00-18:00	09	[P/2F]	高橋凜 TAKAHASHI Rin 「コラボレーション・ウィズ・オーディエンス」 "Collaboration with Audience"
	17:00-17:30	02	[P/2F Lobby]	荒川ナッシュ医③ Ei ARAKAWA-NASH (3) 《Plush Subjectivity》
2/14 (水)	16:00-17:00	10	[T/1F Cafe]	岩切澤「台湾茶会：大切なことは小さな声で」 IWAKIRI Mio "Chatting over Taiwanese Tea: Conveying What is Precious in Quiet Voices"
2/17 (土)	10:00-20:00	11	[P/2F]	関川航平 SEKIGAWA Kohei 《月蝕のレイアウト》The Touch of Your Lips
	13:00-15:00	07	[W/B1F]	フェンバーガーハウス/ロジャー・マクドナルド① Fenberger House/Roger MCDONALD (1)
2/18 (日)	13:00-15:00	07	[W/B1F]	フェンバーガーハウス/ロジャー・マクドナルド② Fenberger House/Roger MCDONALD (2)

※ライブ・イベントは予約不要で鑑賞いただけます。 ※イベント情報内の略号は、それぞれ下記を表しています。
[P]=パフォーマンス [W]=ワークショップ [T]=トーク [2F]=2F Exhibition Gallery [B1F]=B1F Exhibition Gallery
※詳細は、ウェブサイトおよび、会場で配布予定のライブ情報をご参照ください。 *台湾茶会は先着 15 名で有料。

オフサイト展示

恵比寿ガーデンプレイス センター広場

〔CCBT 連携企画〕

□ 恵比寿ガーデンプレイス センター広場

特別プログラム「Poems in Code—ジェネラティブ・アートの現在／プログラミングで生成される映像」

シビック・クリエイティブ・ベース東京〔CCBT〕のコアプログラムのひとつである「未来提案型キャンプ（Future Ideations Camp）」の構想を発展させ、恵比寿ガーデンプレイスのセンター広場にてジェネラティブ・アート*の作品上映を行います。

CCBT では、多様な人々が協働し、アートとデジタルテクノロジーによる創作活動を行う短期集中ワークショップ「未来提案型キャンプ（Future Ideations Camp）」を開催しています。2023 年 2 月にはコンピューターによるデザインを、2023 年 9 月にはブロックチェーンの仕組みをテーマに、国内外からのゲストと参加者延べ 80 名が参加しました。

本プログラムでは、これらのキャンプの課題をさらに発展させ、NFT（非代替性トークン）アートとしても注目されるジェネラティブ・アート作品について、「映像言語（Art & Alternative Visions）」としてのプログラミングからその表現を紹介します。さらに、約 4m の大型ビジョンを設置し、都市におけるデジタルサイネージを、個人／コミュニティの表現の場とする「映像メディアの公共性」から試行します。

国内外約 12 組の招待作家にくわえ、キャンプ参加者による成果作品を上映する本プログラムから、映像言語としてのプログラミングの新たな可能性、そしてアルゴリズムが織りなす多彩な表現をお楽しみいただけます。

* コンピュータソフトウェアのアルゴリズムによって生成されるアート作品の総称。

〔日時〕 2024 年 2 月 2 日（金）～2 月 18 日（日）10:00-20:00（最終日は 18:00 まで）

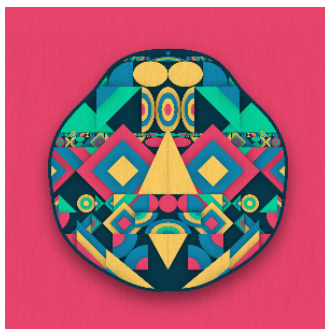
〔料金〕 無料

〔会場〕 恵比寿ガーデンプレイス センター広場

〔企画〕 シビック・クリエイティブ・ベース東京〔CCBT〕

〔プログラムディレクション〕 セオ・ヒョジョン（アーティスト）、

高尾俊介（アーティスト、ジェネラティブアート振興財団代表理事）



左：高尾俊介《CityScape #1》2021 年 右：高尾俊介《Generativemasks #1947》2021 年

上映 | 1 階ホール

東京都写真美術館 1F ホールを会場に、恵比寿映像祭のために特別に編まれた上映プログラムを連日お届けします。劇映画から、実験映画、ドキュメンタリー、アニメーション、現代美術作品まで、ジャパン・プレミアを含め、国内外から多様な作品が集います。上映後には、監督やゲストを招きトーク・セッションを開催します。

01. デイヴィッド・ハモンズの芸術と時代 《The Melt Goes On Forever》
02. バーナデット・コーポレーション特集
03. 釜利子新作ドキュメンタリー 《ゆっくりあるく》
04. 石と太陽 — 《最後に残るもの》《「太陽」を売った少女》
05. 台湾短編映像芸術の今 (GP: 袁廣鳴 [ユエン・グァンミン]、岩切澤)
06. [スペシャル上映] American Boyfriend: For a Stranger (GP: ミヤギフトシ)
07. 月へ向かうヒントが得られる? 11 のアニメーション — DigiCon6 ASIA (GP: 山口泰広)
08. クロベニグンジョウシロレモン — 8 ミリ短編映画特集: 釜利子/宮田靖子/小口容子/小田香
09. エドゥアルド・ウィリアムズ 《ヒューマンサージ 3》
10. バスマ・アルシャリフ 《ウロボロス》

※GP=ゲスト・プログラマー



左: 01. "David Hammons on 125th street," 1981. ©Michael Blackwood 《The Melt Goes On Forever》より From *The Melt Goes On Forever*. 2022 年/101 分/英語 (日本語字幕付)

右: 02. Bernadette Corporation 《Get Rid of Yourself》2003 年 Bernadette Corporation, *Get Rid of Yourself*, 2003. 61 分/フランス語、英語 (英語・日本語字幕付) Courtesy of Bernadette Corporation; Greene Naftali, New York; and Electronic Arts Intermix (EAI), New York.



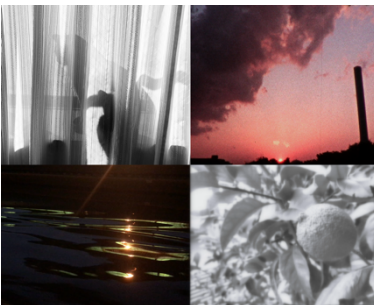
左: 03. 釜利子 《ゆっくりあるく》2022 年/88 分/日本語

右: 04. デボラ・ストラットマン 《最後に残るもの》2023 年/49 分 34 秒/フランス語 (日本語字幕付)



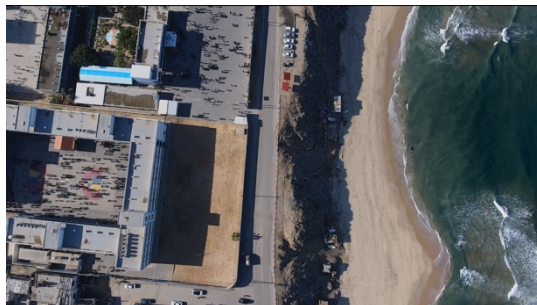
左：05. 袁廣鳴 (ユエン・グァンミン) 《日常演習》2018 年/5 分 57 秒

右：06. ハナ・クインラン&ロージー・ヘイスティンクス 《Something for the Boys》2018 年/ 16 分 34 秒/英語(日本語字幕付)



右：07. フライング モンキーズ プロダクション 《Monsoon Blue》2023 年/ 14 分 19 秒/中国語 (日本語・英語字幕付)

右：08. クロベニグンジョウシロレモンー 8 ミリ 短編映画特集:釜利子/宮田靖子/小口容子/小田香、2024 年/計約 70 分/新作



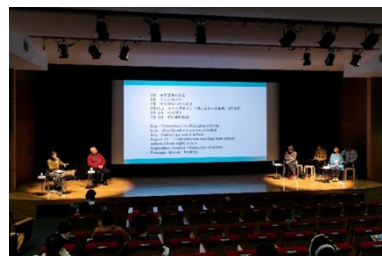
左：09. 《ヒューマンサージ 3》2023 年/121 分/スペイン語、タミル語、中国語、英語、シンハラ語 (英語・日本語字幕付)

右：10. バスマ・アルシャリフ 《ウロボロス》2017 年/77 分/英語、チヌーク語、イタリア語 (英語・日本語字幕付)

シンポジウム／スペシャルトークセッション

1 階ホール・2 階ロビー

総合テーマ「月へ行く 30 の方法」や映像アーカイブを掘り下げるシンポジウムやトークセッションを、多彩な登壇者を迎えて開催します。



参考画像) 恵比寿映像祭 2023 コミッション・プロジェクトシンポジウム

Photo: 新井孝明

[シンポジウム]

1：コミッション・プロジェクト——委嘱制作と映像制作の可能性

「恵比寿映像祭 2023」からスタートした「コミッション・プロジェクト」は、日本を拠点に活動するアーティストに制作委嘱した映像作品を「新たな恵比寿映像祭」の成果として発表するものです。これまでに蓄積した国内外のネットワークを活用し、将来的に国内外の文化施設や文化組織での発信へ広げることで、アーティストの創造活動を支援していこうとするスキームを作ろうとしています。本プロジェクトの審査委員を招き、前回発表された委嘱制作作品や今年度の審査対象となったプロジェクトの内容を踏まえながら、現代の映像表現を考察するシンポジウムを開催します。西洋中心の近代史から、アジアにおける写真映像史やこれからの写真映像表現の可能性をさぐる機会とします。またこの場で第 2 回「コミッション・プロジェクト」の作品委嘱を行うアーティスト 4 名を発表します。

【日時】 2 月 15 日 (木) 17:30-20:00

【会場】 東京都写真美術館 1F ホール (定員 190 名)

【料金】 無料 ※日英通訳付

【パネリスト】 沖啓介 (メディア・アーティスト)、斉藤綾子 (映画研究者、明治学院大学教授)、レオナルド・バルトロメウス (山口情報芸術センター [YCAM]、Gudskul Ekosistem キュレーター)、メー・アーダードン・インカワニット (映画・メディア研究者、キュレーター、ウェストミンスター大学教授)、田坂博子 (東京都写真美術館学芸員・恵比寿映像祭キュレーター)

【進行】 堀内奈緒子 (特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト])

2：台湾映画の修復・保存および台湾新浪潮の受容の現在

恵比寿映像祭 2024 では、台湾の映像アーキビスト、キュレーターを迎え、日本の映像文化に造詣の深い美術館関係者とともに、台湾と日本の映像表現を考察します。また、1980 年代において重要な台湾映画新浪潮 (ニューウェーブ) 以後の映像文化に焦点を当て、アーカイブの観点から、映画展示の可能性およびビデオアートの多様性について議論します。

【日時】 2 月 17 日 (土) 16:30-20:00

【会場】 東京都写真美術館 1F ホール (定員 190 名)

【料金】 無料 ※台湾華語と日本語通訳付

【パネリスト】 張怡蓁 (チャン・イー・ジェン) (台湾國家電影及 視聽文化中心 修復・保存研究員)、孫松榮 (スン・ソンロン) (キュレーター、国立台北芸術大学教授)、近藤健一 (森美術館 シニア・キュレーター)

3：[日仏会館共催企画] MOONAGE とテクノロジー・アート

今回の恵比寿映像祭では、作家と来場者をはじめ、様々なコミュニケーションに焦点があてられています。美術や映像表現とともに音楽も、コミュニケーションの手段として古くから親しまれているツールの一つです。現在においては多くのテクノロジー・アートは音楽と密接に結びついています。音楽とテクノロジー・アートの関係について詳しい識者を招き、日本やフランスにおける歴史と関係性を語っていただきます。

[日時] 2月6日(火)18:00-20:00

[会場] 日仏会館 1F ホール (定員 130 名)

[料金] 無料 ※日本語のみ

[パネリスト] 畠中実 (NTT インターコミュニケーション・センター[ICC]主任学芸員)、クリストフ・シャルル (武蔵野美術大学教授)

[モデレーター] 藤原邦一 (日仏会館学術・文化事業委員会委員、(株)藤原プロデュース代表)、藤村里美 (東京都写真美術館学芸員)

[スペシャルトークセッション]

1：[CCBT 連携企画] Poems in Code —ジェネラティブ・アートの現在

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] と連携し、恵比寿ガーデンプレイス センター広場で行われるジェネラティブ・アート作品の特別プログラムから、ディレクターズトークを開催。CCBT の未来提案型キャンプから派生した今回のプログラムについて、都市空間にあるサイネージの映像メディアとしての可能性、そして、NFT アートとしても注目されるジェネラティブ・アートから、映像言語としてのプログラミングの表現性に迫ります。

[日時] 2月3日(土)15:00-17:00

[会場] 東京都写真美術館 1F ホール(定員 190 名)

[料金] 無料 ※日本語のみ

[スピーカー] セオ・ヒョジョン、高尾俊介

[モデレーター] 廣田ふみ(シビック・クリエイティブ・ベース 東京[CCBT])

教育普及プログラム | 1 階スタジオほか

恵比寿映像祭 2024 では、様々な方々が快適にフェスティバルを楽しみ、お気に入りの作品を見つけたり、フェスティバルについて考えたり、制作を通して仕組みを理解したり、恵比寿映像祭をそれぞれのペースで体験、鑑賞いただけるよう、教育普及プログラムを多数用意しています。参加費無料。※事前申込など詳しくは、恵比寿映像祭 2024 公式ホームページを参照ください。

【社会包摂プログラム】

だれもが楽しめる恵比寿映像祭を目指し、障害がある方や高齢者、乳幼児、外国人など多様な方々に世界のすぐれた映像作品を鑑賞していただくために、サポートツールをそろえました。

1：だれもが楽しめる「やさしい」見どころガイド

恵比寿映像祭 2024 の総合テーマや各階の見どころを、やさしい日本語や作品画像、ピクトグラムでわかりやすく解説した印刷物を配布するほか、ウェブサイトでも見ることができます。

【設置場所】 東京都写真美術館 各階受付、恵比寿映像祭ウェブサイト

【配布期間】 会期中

2：手話通訳付き「たのしい」ギャラリートัวร์

キュレーターが手話通訳者をまじえて、恵比寿映像祭 2024 の見どころ、代表作品についてわかりやすく解説します。スタジオで解説を聞いてからみんなで展示室をまわります。こどもから大人までどなたでも楽しめるツアーです。

【日時】 2月8日（木）、11日（日）11:30-12:30

【出演】 恵比寿映像祭 2024 キュレーター

【会場】 東京都写真美術館 館内

【対象】 どなたでも（日本語での実施）

【申込】 事前申込不要

3：TOP ボランティアによる展示会場アテンド

当館ボランティアが筆談や UD トーク、ユニボイスなどを使用しながら展示会場を一緒にめぐります。聞こえにくい方、見えにくい方、車いすをご利用の方など、鑑賞にサポートが必要な方は是非ご利用ください。

【日時】 2月8日（木）、9日（金）、15日（木）、16日（金）各日 11:00-19:00

【スタッフ】 東京都写真美術館ボランティアスタッフ

【会場】 東京都写真美術館 館内

【対象】 鑑賞にサポートが必要な方

【定員】 各日 4 名程度

【申込】 事前申込制（3 日前まで）

【教育普及プログラム】

映像作品と鑑賞する人のあいだに様々な縁を結び、作品をじっくり鑑賞するためのきっかけとなるようなプログラムをとおして、より深い鑑賞体験へいざないます。

4：「縁試し」 今日のあなたにピッタリな作品は？

1 階ロビーにおみくじボックスを設置します。映像祭をめぐる前におみくじをひいてみましょう。そこにはあなたの運勢とあなたへのおすすめ作品が書かれています。おみくじをきっかけに作品との偶然の出会いが生まれ、その作品をじっくり見ることで、見方・理解を深め、作品との縁を深めます。

【設置場所】 東京都写真美術館 1F ロビー

【会期】 会期中、なくなるまで

【対象】 どなたでも

5：TOP ボランティアによるアニメーション・オープンワークショップ

当館ボランティアスタッフが運営する、おどろき盤制作と回転アニメーション Web アプリ「マジカループ」による当日飛び込み OK のオープンワークショップ。楽しい制作をとおして、映像のしくみへの理解を深めます。お目当ての上映までの空き時間や、展示を見て疲れた時に途中で一息ついたり、家族やお連れの方がシンポジウム参加中に楽しく過ごす居場所にも。自由にご活用ください。

【日時】 2月17日（土）13:00-17:00

【スタッフ】 東京都写真美術館ボランティアスタッフ

【会場】 東京都写真美術館 1F スタジオ

【対象】 どなたでも ※小学生以下は大人の同伴が必要

【定員】 50 名

【申込】 事前申込不要

6：ワークショップ「みっける!! 恵比寿映像祭」

みっける写真道場の師範：北川貴好（美術家）によるワークショップ。映像祭の出品作品のタイトルをきっかけに、おもしろいものを見つけて写真を大量に撮影し、それらをつなげて動画をつくります。ワークショップの最後には、参加者それぞれが趣向を凝らして楽しく盛大な発表会を開催します。

【日時】 2024 年 2 月 4 日（日）撮影 day / 2 月 11 日（日）編集・発表 day

【講師】 北川貴好（美術家、みっける写真道場師範）

【会場】 東京都写真美術館 1F スタジオほか

【対象】 大人または親子（小学 3 年生以上 ※2 日間参加可能な方）

【定員】 8 組

【申込】 事前申込制

7：ワークショップ「今日の気持ちを写真にしよう～フォトグラムで感じる意識のながれ～」

様々な表現に満ちた映像祭の作品を鑑賞したあとに、その心の中に浮かんだ、まだ言葉にならないようなもやもやをフォトグラムで表現します。自分自身の思いを外に表現し、さらに予測不可能な結果が表れやすいフォトグラム作品をつくって参加者みんなで鑑賞することによって、新たな対話や感想が生まれる可能性を見出します。

【日時】 2024 年 2 月 10 日（土）12:30-17:00

【スタッフ】 東京都写真美術館 インターン、ボランティアスタッフ

【会場】 東京都写真美術館 1F スタジオ

【対象】 中学生以上

【定員】 12 名

【申込】 事前申込制

8：色と形と言葉のゲーム

当館オリジナルの「色と形と言葉のゲーム」を使って、それぞれの感じたことや思ったことを話し合い、考えや発想の違いと楽しさを共有します。ゲームのあとに展示作品を見ると、ひとりでは気づかなかった作品の新たな魅力が発見できるかも。ぜひご参加ください。

【日時】 2月6日（火）14:00-15:00

【会場】 東京都写真美術館 2F 展示室

【対象】 どなたでも（日本語での実施）

【申込】 事前申込不要

地域連携プログラム | 地域連携各所

地域連携プログラムでは、恵比寿近隣の地域で活躍するアートの担い手が総合テーマを共有して、それぞれの会場で選りすぐりの展覧会ほか多彩なイベントを開催します。加えて各施設をめぐるシールラリーも実施。シールを集めると記念品がもらえます。ぜひご参加ください。

1. 公益財団法人日仏会館／TMF 日仏メディア交流協会

映像と講演 ここだけのフランス映画 VIII アルノー・デプレシャン監督『いつわり』
[日時] 2024 年 2 月 9 日 (金) オンライン映画視聴
0:00-23:59 講演 20:00-20:30
[会場] オンライン
[料金] 一般 1,000 円、学生・主催団体会員無料、事前申込
[申込] Peatix (公財) 日仏会館ページより
<https://fmfj-20240209.peatix.com/>
[問合] 03-5424-1141
[HP] www.mfjtokyo.or.jp/

2. YEBISU GARDEN CINEMA

カラフルな魔女～角野栄子の物語が生まれる暮らし～
[日時] 2024 年 1 月 26 日 (金) 公開
[会場] YEBISU GARDEN CINEMA (渋谷区恵比寿 4-20-2 恵比寿ガーデンプレイス内)
[料金] 大人 2,000 円、大学生 1,500 円、高・中・小学生 1,000 円、シニア 1,300 円、プライベートシート 2,200 円
[休日] なし
[問合] 0570-783-715 (ナビダイヤル)
[HP] <https://www.unitedcinemas.jp/ygc/>

3. MA2Gallery

川内倫子 個展
[日時] 2024 年 2 月 2 日 (金)～2 月 24 日 (土) 13:00-18:00
[会場] MA2Gallery (渋谷区恵比寿 3-3-8)
[料金] 無料
[休日] 日月祝 (火曜は前日までの事前メールアポイントのみ)
[問合] 03-3444-1133 ma2gallery@ma2gallery.com
[HP] <https://www.ma2gallery.com/>

4. 工房親

The Whole to Express.
[日時] 2024 年 2 月 3 日 (土)～2 月 25 日 (日)
水～土 12:00-19:00 日祝 12:00-18:00 (最終日は 17:00 まで)
[会場] 工房親 (渋谷区恵比寿 2-21-3)
[料金] 無料
[休日] 月火
[問合] 03-3449-9271
[HP] <https://www.kobochika.com/>

5. MuCuL

「月の海へ」佐藤慶子 映像個展
[日時] 2024 年 2 月 2 日 (金)～2 月 18 日 (日) 13:00-18:30
[会場] MuCuL (渋谷区恵比寿 2-21-3)
[料金] 無料 ※ワークショップ・パフォーマンスなど一部有料 (1,000 円)
[休日] 2 月 5 日 (月)、6 日 (火)、13 日 (火)
[問合] 03-3446-2618
[HP] <https://secure01.blue.shared-server.net/www.e-mucul.com/>

6. NADiff a/p/a/r/t

原田裕規『とるにたらない美術ーラッセン、心霊写真、レンダリング・ポルノ』刊行記念ブックフェア
[日時] 2024 年 2 月 2 日 (金)～2 月 18 日 (日) 12:00-20:00
[会場] NADiff A/P/A/R/T (渋谷区恵比寿 1-18-4 NADiff a/p/a/r/t 1F)
[料金] 無料
[休日] 2 月 5 日 (月)、2 月 13 日 (火)
[問合] 03-3446-4977
[HP] www.nadiff.com/

7. MEM

石原友明展「サッカード残像」
[日時] 2024 年 2 月 1 日 (木) ~ 2 月 29 日 (木) 13:00-19:00
[会場] MEM (渋谷区恵比寿 1-18-4 NADiff A/P/A/R/T 3F)
[料金] 無料
[休日] 月 (祝休日の場合は開廊、翌平日休廊)
[問合] 03-6459-3205
[HP] <http://www.mem-inc.jp/>

9. ART FRONT GALLERY

釘町彰: From the Land of Men
[日時] 2024 年 2 月 2 日 (金) ~ 2 月 25 日 (日) 水・金 12:00-19:00 土日祝 11:00-17:00
[会場] ART FRONT GALLERY (渋谷区猿楽町 29-18 ヒルサイドテラス A 棟 1F)
[料金] 無料
[休日] 月火
[問合] 03-3476-4869
[HP] <https://www.artfrontgallery.com>

11. POETIC SCAPE

野村浩 Painter
[日時] 2024 年 1 月 20 日 (土) ~ 2 月 18 日 (日) 13:00-18:00
[会場] POETIC SCAPE (目黒区中目黒 4-4-10 1F)
[料金] 無料
[休日] なし (月~水曜は前日までの事前メールアポイントのみ)
[問合] 03-6479-6927 front-desk@poetic-scape.com
[HP] <https://www.poetic-scape.com/>

13. Koma gallery

藤林彩名写真展「狸のいる風景」
[日時] 2024 年 2 月 9 日 (金) ~ 2 月 18 日 (日) 11:00-19:00 (最終日 15:00 まで)
[会場] Koma gallery (目黒区三田 1-12-25 金子ビル 201)
[料金] 無料
[休日] 月
[問合] komagallery.info@gmail.com
[HP] <https://www.komagallery.com>

8. AL

彼方の世界: 篠田太郎 狩野哲郎 大船真言 SPREAD
赤塚不二夫&赤塚りえ子
[日時] 2024 年 2 月 1 日 (木) ~ 2 月 11 日 (日) 11:00-19:00 (最終日は 18:00 まで)
[会場] AL (渋谷区恵比寿南 3-7-17 1F)
[料金] 500 円
[休日] なし
[問合] 03-5722-9799
[企画] TRAUMARIS 住吉智恵
[HP] <https://al-tokyo.jp/>

10. N&A Art SITE

ヴィム・ヴェンダースの透明なまなざし
[日時] 2024 年 2 月 1 日 (木) ~ 3 月 2 日 (土) 12:00-17:00 (2 月 24 日 (土)、3 月 2 日 (土) のみ 10:00-17:00)
[会場] N&A Art SITE (目黒区上目黒 1-11-6)
[料金] 無料
[休日] 日月祝
[問合] 03-6261-6098
[HP] <https://nanjo.com/wim-wenders-lucidgaze/>
※恵比寿映像祭 2024 地連携プログラム | 関連上映
ヴィム・ヴェンダース『夢の涯てまでも ディレクターズカット 4K レストア版』については、15 日間の恵比寿映像祭終了後、東京都写真美術館ホールでの上映となります。
詳細は、東京都写真美術館公式サイトをご参照ください

12. 景丘の家

Photonic Life / 藤本直明
[日時] 2024 年 2 月 2 日 (金) ~ 2 月 29 日 (木) 火~金 11:00-18:00 土日祝 10:00-17:00
[会場] 景丘の家 (渋谷区恵比寿 4-5-15)
[料金] 無料
[休日] 月、2 月 11 日 (日)
[問合] 03-6455-7835
[HP] <https://kageoka.com>

チケット情報

恵比寿映像祭は、展示やシンポジウムなどは入場無料のフェスティバルですが、上映など一部の定員制のプログラムについては、有料チケットが必要です。

〈有料プログラム〉

●上映（前売 800 円／当日 1,000 円）

●スペシャル上映（前売 1,500 円／当日 1,800 円）

※前売券の販売期間は 2024 年 1 月 19 日（金）10:00～各プログラムの前日 23:59

ただし、予定枚数が終了した場合は販売期間内でもご購入いただけません。

※当日券は残席がある場合のみ、東京都写真美術館 1F ホール受付で各日午前 10 時より販売いたします。

〈入場方法〉

展示ほか（無料） | 東京都写真美術館 1F 総合受付で各日午前 10 時より入場券を配布します。

シンポジウムなど（無料） | 整理券の受け取りが必要です。

◎シンポジウム／スペシャルトークセッション

定員 190 名。整理券は当日 10 時から東京都写真美術館 1F ホール受付にて配布を開始いたします。

◎日仏会館シンポジウム（日仏会館ホール／自由席／15 分前開場）

定員 130 名。整理券は当日 10 時から日仏会館フォワイエにて配布を開始いたします。

添付資料

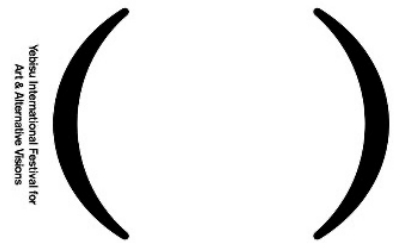
◆恵比寿映像祭とは

恵比寿映像祭は、2009 年の第 1 回開催以来、年に一度恵比寿の地で、展示、上映、ライブ・パフォーマンス、トーク・セッションなどを複合的に行ってきた映像とアートの国際フェスティバルです。映像分野における創造活動の活性化と、映像表現やメディアの発展をいかに育み、継承していくかという課題について広く共有する場となることを目指してきました。近年では、地域とのつながりや国際的なネットワークを強化し、一層の充実と発展をはかっています。

◆ロゴについて

映像をめぐって、ひとつではない答えをみんなで探していこう！
という「恵比寿映像祭」の基本姿勢を、オープンなフレームとしてのカッコに託しました。

映像というカッコにあえて入れてみることで、
はじめて見えてくるものがある
何かを限定するためではなく、
いろんなものを出し入れして、よく見るためのカッコです。



恵比寿映像祭 2024 プレスお問い合わせ

※ 報道・媒体関係者様のお問い合わせに限らせていただきます

恵比寿映像祭広報担当（共同ピーアール株式会社）：西室（にしむろ）、田中真衣、田中侑里子

TEL：03-6264-2382

E-mail：yebizo2024-pr@kyodo-pr.co.jp

携帯：080-8072-3133（西室）、080-8866-6183（田中真衣）、080-2332-7919（田中侑里子）

※本リリース内で使用している写真を広報用画像としてご用意しています。

広報用図版申請フォーム：<https://tayori.com/f/yebizo2024>

より申請をいただくか、

①ご所属 ②貴媒体名 ③掲載予定時期 ④ご希望画像の作家・作品名などを記入のうえ、
上記のプレス担当者までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

*図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

*図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

※事業は諸般の事情により変更することがございます。あらかじめご了承ください。

※展覧会等の詳細、最新の情報は恵比寿映像祭ホームページをご確認ください。

恵比寿映像祭ホームページ：<https://www.yebizo.com>

TEL：03-3280-0099 / FAX：03-3280-0033

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM